

柑橘類(温州みかん、ゆずなど)



主な加害種: ヒヨドリ、カラス、ハクビシン、イノシシ、シカ

柑橘類を最も加害するのはヒヨドリであるが、カラスも食害する。ヒヨドリやカラスが穴を開けた痕からメジロのような小さな鳥も食害する。ムクドリは柑橘類を食害しない。獣類も好んで食する。



加害種: ヒヨドリ

果皮についているV字型の切り裂きが比較的細く、カラスよりもヒヨドリの嘴の大きさに近く見える(カラスのくちばしは長さ5-7cm、ヒヨドリは約2.5cm)。

撮影: 百瀬浩



加害種: ハシブトガラス

果皮についているV字型の切り裂きは太くて明瞭でありハシブトガラスと考えられる。

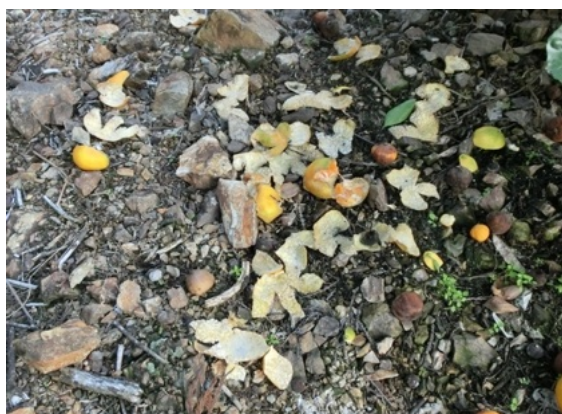
撮影: 吉田



加害種: ハクビシン

鳥の嘴ではなく、獣の口でかじったような痕が果皮に残る。また、基部が残っているのがハクビシンの特徴

撮影: 古谷益朗



加害種: ハクビシン

ハクビシンは一度口中に入れて吐き出す食べ方も時々する。吐き出した果実に内実が残っている場合は、これを綺麗に口で摘んで引き剥がして食べるため、外皮の損傷が少なく、食痕の外皮内側への実の残りが少ない、まるで人がミカンを剥いて食べたかのような食痕になることが多い。

撮影: 石川



加害種: イノシシ(左)、ハクビシン(右)

イノシシは口内で咀嚼して皮を吐き出すことが多いが、場合によっては外皮を足で抑えて内身だけ綺麗に剥がして食べることもあり、その場合はハクビシンとの識別が難しい。

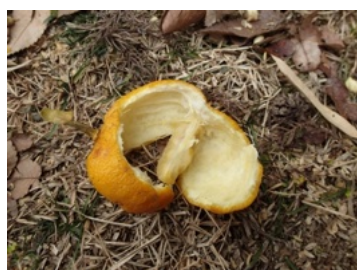
撮影: 石川



加害種: サル(ユズの食痕)

サルは手に実を持って口でむききかけを作り、そこからは手でむきながら食べることが多い。皮に残った食痕の一噛み部分は人よりも幅が狭く、あまりギザギザにならない。

撮影: 上田



加害種: サル

ユズ(上)、夏みかん(下)のサルによる食痕。手と口を使っている様子がわかる。

撮影: 上田



加害種:シカ

みかんの苗木の食害、葉や樹皮まで食べられる。実は全て食べられてしまい残らない。

撮影:上田



加害種:シカ

ユズの食害、葉を食べているところ。

撮影:上田



加害種:ハクビシン

箱ワナの餌として用いたみかんの食痕。内実を剥がして綺麗に食べるが、半身が残ることがある。

撮影:石川



加害種:ハクビシン

ハクビシンは噛みとった果皮を吐き出して散らかすことが多い。

撮影:吉田



加害種: ヒヨドリ

果皮にあけた穴から細い嘴を差し込んで食べたことがわかる。

撮影: 吉田



加害種: ヒヨドリ

果皮に残っているV字型の切り裂きは細くヒヨドリによる食害と考えられる。

撮影: 山口



加害種: カラス

野外実験のために樹木に糸で結びつけたミカンを防鳥網ごしに地上へ落とし、外皮を残して中身だけをきれいに持ち去った。ヒヨドリは外皮も食べてしまうことが多い。

撮影: 吉田



加害種: ハシボソガラス

飼育個体での摂食実験時の写真。外皮にV字形の切り裂きがない点は獣の食害を思わせるが、嘴を差し込んで食べた深い食痕が鳥害の特徴を示す。

撮影: 佐伯



加害種:カラスまたはヒヨドリ

果皮についているV字型の切り裂きは比較的太いが、種の判定は難しく、カラスとヒヨドリの両方に食害されているかもしれない。

撮影:山口



加害種:不明

食害が進むと果皮のみが枝に残っている状態になることもある。この圃場にはカラスとヒヨドリが来ていたとのこと。またハクビシンによる食害の可能性も否定できない。

撮影:山口



加害種:ヒヨドリ

庭先でポット栽培しているシークワサーをヒヨドリが食べる様子。枝先に止まり、細い嘴で果実を繰り返し突いていた。

提供:飯塚康雄氏

NAROchannel <https://youtu.be/qnA7ej9qmNo>
で動画を見ることができます。